

吉野川に関する情報を幅広く発信する広報誌



Ourよしのがわ Vol.73

2026年7月号

連載

・ここがええですよ！吉野川～流域にこんなんでないで～
・吉野川歴史探訪：吉野川第一期改修百周年に向けて⑬
吉野川の中州を歩く―石井町藍畑地区の歴史探訪―

祝 吉野川沼田堤防完成

祝 吉野川沼田堤防完成

沼田堤防完成式典

事務所だより

- ・沼田堤防完成式典を開催しました
- ・「排水ポンプ車操作訓練」を実施しました
- ・建設DX見学会・参観日を開催しました！
- ・大規模洪水に備え、演習を実施しました！
- ・重要水防箇所を市町と合同で巡視しました
- ・吉野川河川一斉清掃
- ・視察レポート 出雲で学んだ人と生きものの関係づくり
- ・第2回吉野川上流かわまちづくり推進協議会

イベント情報

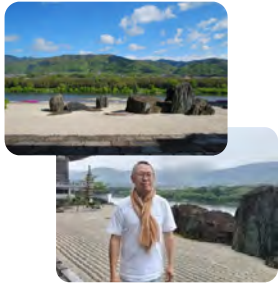
- ・吉野川フェスティバル2026が開催されました！
- ・水辺で乾杯！2026
- ・水難事故防止講習を「交流体験inよしのがわ」で実施しました
- ・令和8年度 水生生物調査による 吉野川水質調査を開催します



Ourよしのがわ
ウェブページ

令和8年度 吉野川フェスティバル・水難事故防止講習

Ourよしのがわ Vol.73 コンテンツ



【連載】 P1～

・ここがええでよ！吉野川～流域にこんなあるでないで～：

本楽寺 住職 吉田 有玄さん（案内図①）

・吉野川歴史探訪：吉野川第一期改修百周年に向けて①⑦

吉野川の中州を歩く―石井町藍畑地区の歴史探訪―

【事務所だより】 P11～

・沼田堤防完成式典を開催しました（案内図②）

・吉野川河川一斉清掃

・「排水ポンプ車操作訓練」を実施しました。

・重要水防箇所を市町と合同で巡視しました～出水に備え6市8町と現地確認～

・建設DX見学会・参観日を開催しました！

・第2回吉野川上流かわまちづくり推進協議会

・大規模洪水に備え、演習を実施しました！～令和8年度堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション～

・視察レポート 出雲で学んだ人と生きものの関係づくり

【イベントだより】 P24

・吉野川フェスティバル2026が開催されました！（案内図③）

・水辺で乾杯！2026

・水難事故防止講習を「交流体験inよしのがわ」で実施しました

・令和8年度 水生生物調査による 吉野川水質調査を開催します

アソビバ

【遊VIVA!吉野川】 P28

・吉野川上流でラフティングに挑戦しました！

【ミニ情報発信室】 P30

【吉野川Diary・編集後記】 P32



表紙の写真：
沼田堤防完成式典（美馬市）（案内図②）

案内図





ここがええだよ！吉野川

～流域にこんなあるでないで～

四国の面積の5分の1を占める吉野川流域。そこに息づく人々の暮らし、産業、歴史、文化は、雄大な吉野川の流れと深く関わりながら歴史を刻んできました。このコーナーでは、流域に関わる人々・出来事、旬の話題などを取材して、吉野川流域の「ええところ」を発掘・発信していきます。

吉野川と阿讃山脈を借景に唯一無二の絶景を有する庭園



お寺の山門を上がると、美しい枯山水の庭と吉野川と阿讃山脈が織りなす絶景が見えてきます。

写真提供：本楽寺

今回ご縁があり取材をさせていただいたのは、美馬市穴吹町三島^{みしま}、国道192号沿いの吉野川がすぐ近くを流れる場所に建つ高台のお寺、本楽寺^{ほんらくじ}です。

本楽寺は、吉野川と阿讃山脈^{しやっけい}を借景とした枯山水に代表される見事な庭園を持ち、全国から観光客や取材が訪れています。2018年には、国土交通省四国地方整備局が四国らしい風景や町並みなどの景観を選定するプロジェクト『四国八十八景』に登録され、ウェブサイトでは、『本楽寺の枯山水と雄大な吉野

川のコラボレーション』として紹介されています。

枯山水の中心に鎮座する青石は、左が亀、右が鶴を表し、蓬莱山へ向かう様子を表現しています。

「文化は守るものではなく、発展させていくものです。」と話す本楽寺住職^{よしだ ゆうげん}の吉田 宥玄さん。住職として多忙な日々を過ごす中、ご自身も庭師として、庭の施工も行っています。今回はそんな吉田さんに庭園への想いを中心にお話を伺いました。

築地塀を取り除き、『インフィニティの庭』誕生へ



築地塀があったころの写真。境内から吉野川は全く見えず、寺の入り口には釣り鐘があるなど、現在とは全く違った庭園でした。

本樂寺は天長5年（828）に真言宗の道場として開創されました。江戸時代には徳島藩主・蜂須賀氏の菩提所となり、藩祖・蜂須賀正勝の正室「大匠院殿」や、同藩家老の稲田家累代の霊位が祀られているという歴史あるお寺です。

元々、枯山水の庭が整備されていましたが、吉野川沿いの位置に築地塀があり、川は見えていませんでした。この塀を取り払うきっかけとなったのが平成7年（1995）の台風でした。台風の影響で一部塀が壊れてしまったのです。これをきっかけに先代の住職吉田 宥勝さんが「いっそ取り払ってしまおう」と塀の約25mを撤去しました。周りの人達は「塀をとるなんて大丈夫か？」と心配したそうです。当時の事を、現住職で息子の吉田 宥玄さんは「父が自分で撤去しはじめたところ、吉野川がきれいに見えてきて決意を固めたのだと思います。塀がなくなることで庭から見える景色が一変しました。吉野川と阿讃山脈がダイナミックな自然美となり、枯山水とマッチし、物語性がある庭になりました。」と笑顔で話してくれました。

季節や一日の時間帯によって吉野川の見え方が変わり、毎日異なる無限の表情を楽しめることから、お客様から『インフィニティ（無限）の庭』という言葉をもらったそうです。いただいた写真を見ると、その意味がよく伝わってきました。



吉田さんが2018年12月4日に撮影した写真。パノラマのように広がる幻想的な光景に、心が癒やされます。



紅葉の頃も美しい。四季折々に違う表情をみせる庭園の風景は飽きることがありません。

このページの写真提供：本樂寺

作庭家との出会い、庭園への想い



本殿の南に広がる庭園は、枯山水とはまた違う景色が広がります。齋藤 忠一氏によって手入れされた回遊式庭園があり、ゆっくりと散策できます。
写真提供：本楽寺



本楽寺住職 吉田宥玄さん。先代から受け継いだ庭園を現在も手入れし、発展させています。



阿弥陀堂。急峻な崖や山の斜面に建てられた清水寺と同じ懸造りを採用しています。

この見事な枯山水をはじめとする庭園を手掛け
たのは、京都の作庭家、齋藤 忠一氏です。齋藤氏
は、東福寺（奈良県）の方丈庭園や春日神社の貴
賓館庭園を作庭した昭和を代表する重森 三玲氏の
弟子であり、ご自身も国指定名勝庭園「縮景園」
（広島県）の監修など全国各地で作庭しています。

阿波の青石を絶賛し、庭の石組みに数多くの青
石を使用していた重森氏とともに、剣山などを何
度も訪れ石選びをしていました。そこから青石が
ある本楽寺ともご縁ができました。

吉田さん親子は齋藤氏に庭園を手がけてほしい
と会話を重ね、信頼を深めながら時間をかけて実
現させていきました。

本楽寺は徳島県内で唯一、齋藤氏が庭園、建物
すべてを監修しているお寺だそうです。

築地塀を撤去する際も齋藤氏に意見を仰ぎ、塀
を取ることにのお墨付きをいただいたそうです。
庭を手がける前に齋藤氏から「これからずっと維
持はできますか？」と確認がありました。

庭は完成したら終わりではなく、維持し続けることが大切です。この言葉を受け、吉田さん親子は京都や滋賀の寺をはじめ美しい庭がある美術館や施設を訪ね、庭を研究してきました。庭は進化を続けるものだ話す吉田さん。今も齋藤氏の指導を受けながら、広大な庭の手入れを続けています。

庭園内には多くの青石が使われており、敷地内には青石の岩盤が見られます。庭師としての吉田さんは、大きな青石に触れることが楽しくて仕方がないそうです。石の組み合わせを考え、積み上げたらこういう景観になると想像する瞬間、石を積み上げる時や積み上げた後で眺めた時に、ワクワクする気持ちがこみ上げてくるそうです。

この庭の好きな時期を訪ねると、「365日それぞれの魅力がありますが、8月頃の夏の雨の後、雨でぬれた木々の葉が重みで少し下に下がり、濃い緑の葉がもっと濃く見えて、苔が深い緑色になる時期もお気に入りです。」と答えてくれました。

「庭を通じて自然の魅力を日々感じています。吉野川を借景にした庭の存在は大きく、徳島県民にとって吉野川は当たり前のように流れていて、目の前にあることが日常ですが、県外の人には『吉野川は、すごく綺麗』^{しずく}と言ってもらえる機会が多々あります。源流からの1滴の雫から大河になる。川と人生を重ねて考えるときもあります」と話す吉田さん。

国道沿いの寺院でありながら、喧騒を忘れさせる静寂さがあり、山の湧き水から流れてくる滝の音、鳥のさえずりがどこからともなく聞こえてくる桃源郷のような空間で、特別な時間を過ごしてみたいかがでしょうか。



自然の湧き水を生かして滝が流れています。周辺の苔も美しい彩を添えています。



移設された釣鐘。敷石は、吉田さんが施工されました。



山門からは、まるで別世界につながっているかのような、吉野川の景色が広がっています。

懐石精進料理

美しい庭を眺めながら、美味しい料理を食べてもらいたいと、吉田さん自ら料理を手掛けています。日本料理の五味五法五色を大切にした懐石精進料理をいただくには事前の予約が必要です。連絡先等は裏表紙（吉野川Diary）参照。

本楽寺を訪れる際は、『器、庭園を含めた眼と舌と心で楽しめる美食を求めた料理』もぜひ一緒にお楽しみください。



写真提供：本楽寺



吉野川第一期改修百周年に向けて⑬

吉野川の中洲を歩く―石井町藍畑地区の歴史探訪―

石井町文化財保護審議会委員 立石 恵嗣



1. はじめに

日本屈指の大河吉野川は「母なる暴れ川」とも呼ばれます。流域の人びとは古来より洪水や氾濫という暴虐に耐え、大河のもたらす肥沃な堆積土を恵みとして、豊かな日本一の藍作地帯に育て上げました。今回は吉野川中流域の代表的な中洲（川中島）である石井町の藍畑地区を歴史探訪して、流域の人びとの営みを探検してみたいと思います。

2. 吉野川流域絵図の発見

十年以上も前のことでした。石井町教育委員会の職員が、役場の倉庫の片隅で見つけたとって置かれた古文書を見せてくれました。広げると縦横とも2.5m以上もある和紙の彩色絵図でした（図1）。



図1. 絵図写真全図「名西郡高畠村癒上り絵図」（石井町蔵・徳島県立文書館所保管）
筆者加筆

絵図には「寛保2年」（1742）との年号記載があり、北側には「吉野川」、南側には「枝川筋」（現・神宮入江川）が描かれ、枝川は東端から北流しており、両川に挟まれた土地には、耕地が短冊形に多数と彩色されて描かれていました。小さな張り紙も無数にあります。現存する「松熊大明神」（松熊神社）や「龍王」の地名などから現在の石井町藍畑地区の高畠と中須が描かれた絵図のようです。確認のためこの地域のシンボル「第十堰」をさがしてみましたが見つかりません。それもそのはずで、作成年として記されている「寛保2年」（1742）は「第十堰」が築造されたとされる宝暦2年（1752）より十年程前です。第十堰が築造される前の絵図のようです。

何のために作成された絵図だろうか？ 歴史地理学がご専門の徳島地理学会の羽山久男先生に連絡して調査を依頼しました。駆けつけてくださった先生は、会議室の床一杯に広げた絵図のデータを見て、「貴重な物です」とおっしゃり、後日調査成果をご教示いただきました。

3. 「名西郡高畠村 癒上り絵図」を読む

1) 読み取れる内容

- ①手書き・彩色の見取り図、大きさ281×251cm。縮尺は約600分の1程度。
- ②作成年 寛保2年（1742）。作成者は安部伊右衛門（検見役人）ほか5名の藩の役人たち。
- ③絵図中には龍王・野神・松熊大明神などが描かれ、中須地区中心部の吉野川と枝川沿いの耕地が描かれている。
- ④一部の藪以外はすべて畠地。筆数は296筆で、内47筆は「生地」（原野）。
- ⑤耕地には御蔵（藩直轄地）169筆と、給地（知行地）の区分があり、多くは藩の直轄地で、蜂須賀一学87筆ほか6人の給地である。
- ⑥意味不明だが、多数の付箋（青・赤・茶・白色）の色分けがある。

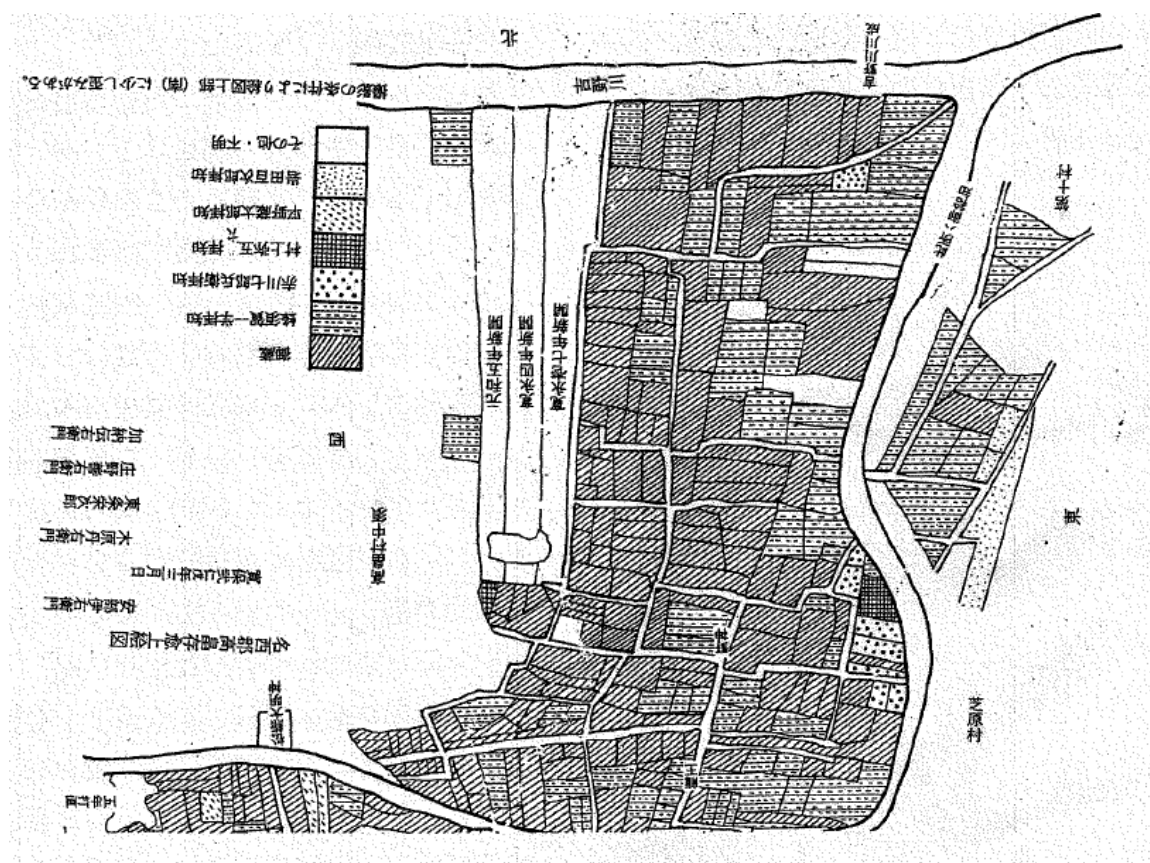


図2. 「名西郡高畠村癒上がり図」分析図（部分）羽山 久男 氏 作成資料 2013

2) わかること

本絵図は「癒上（いえあがり）絵図」と思われる。藩政時代に河川の氾濫・出水等により沿岸の田畑が「川成（かわなり）」や「砂入（すないり）」などと呼ばれる荒廃地になった際、復興作業により年貢が徴収できるようになるまでの間、救済措置として村役人等などが耕作地の状況を詳細に調査して「検見（けみ）奉行」に差出した際に作成された絵図と考えられる。

つまり吉野川などの河川の流域において、洪水・氾濫などにより「川成地」（荒廃地）となった耕作地は復旧するまで年貢が免除されたが、洪水から数年経過して復興し、年貢も取れるようになると、あらためて調査し徴税に備えて作成されたのである。

あらためて見てみると、一筆ごとに所在地・地目・面積・名負人（検地帳記載）・当主人（耕作農民）・御蔵・給地・給人などが記載されており、込み入った詳細な絵図の内容から江戸時代の年貢収奪の複雑さに驚かされます。当時の吉野川流域の景観や村落・社会構造を知るための貴重な絵図史料であることがわかりました。

4. 石井町藍畑地区の歴史的地理的特徴

実はこの藍畑地域は吉野川下流域においても複雑な地理的特徴を持つ地帯です。吉野川は四国山地と讃岐山脈に挟まれて上流から縄をなうように、また網の目のように川筋を形成しながら紀伊水道に流れ込んで行きますが、藍畑地区の東端第十付近で東流してきた吉野川が大きく北流する地点なのです。

現在の吉野川本流は「別宮川」と呼ばれた流路なのですが、藩政時代、吉野川の本流は第十堰地点から板野方面に向かい鳴門の撫養に注ぐ流路（現・旧吉野川）でした。藩政後期の開削や浚渫により本流の水量が激減し、板野郡など下流地帯に塩害が生じたため別宮川に越流堤^{えつりゅうてい}を設置して、本流への増水を図るため築造されたのが「第十堰」でした。

天保11年1840に描かれた【吉野川絵図】（徳島県立図書館蔵）（図3）には、下流は第十堰から上流岩津までの吉野川の流路が縄をなうように描かれています。川筋に挟まれた舞中島、善入寺島、知恵島などの大きな川中島をはじめとした大小の中洲も数多く描かれています。藍畑地区も、吉野川流域に形成された川中島のひとつであり、北には吉野川の本流、南には支流である神宮川に挟まれて「自然堤防」に囲まれうす高く盛り上がった文字どおり「中洲（中須）」でした。加えて東流する本流が直角的に北に向かうことで、この地点は氾濫洪水の常襲地帯となりました。

（この地点で吉野川が北流するのには山間部から流れ出る園瀬川の直撃が地理的に大きな影響があったと考えられます。）



図3. 吉野川絵図（天保11年）筆者加筆
（出典：森文庫資料（徳島県立図書館蔵）より）

頻発する洪水対策のため藍畑地区（旧東・西覚円村、高畠村、第十村）一帯には様々な治水構造物が施されました。「村々沼川堰留之図」（図4）には、逆関・越流堤・水刳・新川の堀貫など洪水や氾濫と粘り強く闘い続けた流域の住民による創意工夫の数々が見られ、その粘り強い執念に圧倒されます。

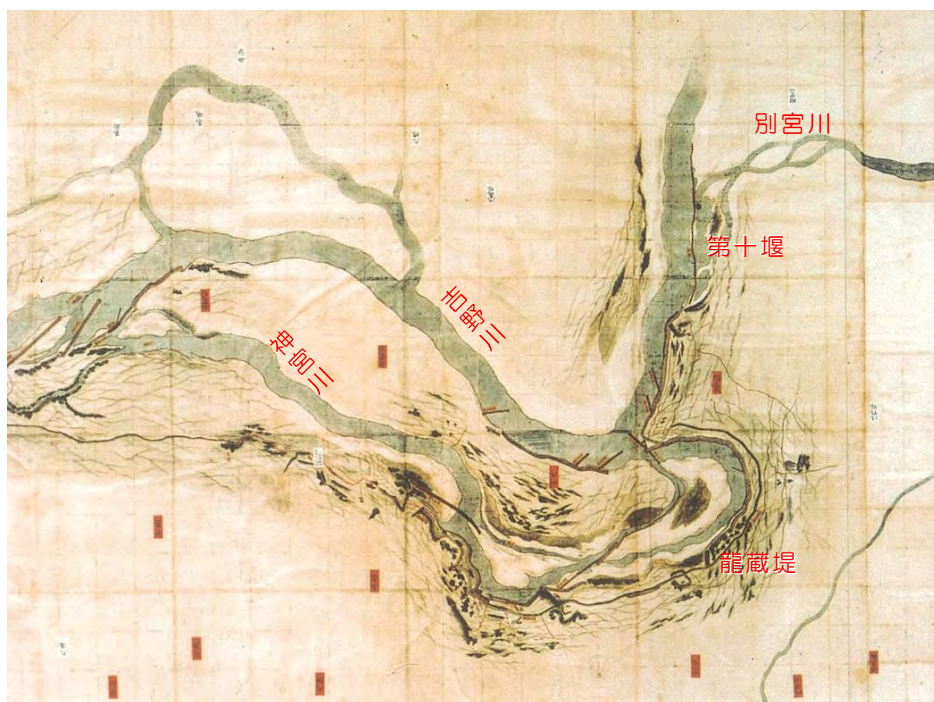


図4. 村々沼川堰留之図（部分）（年代不詳）筆者加筆
（出典：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館「蜂須賀家文書」）

現在は明治期から大正期にかけて実施された第一期吉野川改修工事により、藍畑地区の北側には連続堤防が建設されると同時に、支流であった神宮川は本流との分岐点の上流部が埋め立てられ、再び合流する下流部では「入り江川」状態（現・神宮入江川）となっているので景観はすっかり変わっています。（図5）

また吉野川中下流域においてもこの周辺に関係する絵図や古文書、治水関係遺跡が最も数多く残っているのは治水に苦闘したことを物語っています。

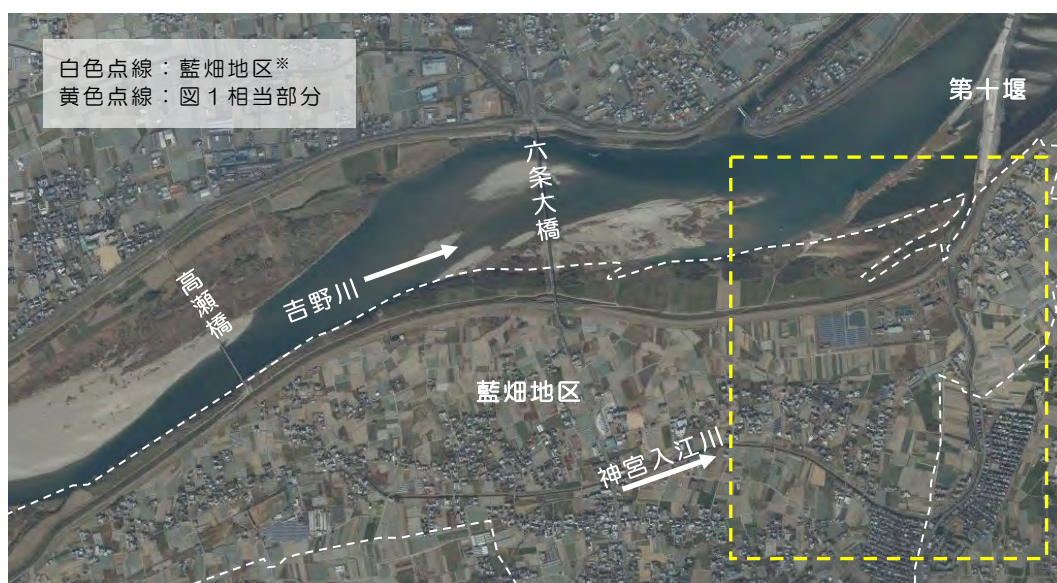


図5. 現在の藍畑（高畠・中須）地区周辺の航空写真（令和3年1月撮影）
※図中のエリア線は目安であり、実際の境界とは異なる場合があります。

5. 絵画に描かれた日本一の藍作地帯の原風景

しかし一方で、母なる吉野川はこの中洲に肥沃な土壌の堆積をもたらしました。砂質で水はけの良い土壌は畑作物には最上の収穫を保障したのです。流域の先人たちは洪水氾濫の暴虐を逆手に取り、藍作にとって絶好の土壌は、藩内においても最高の葉藍収穫高をもたらしました。流域の氾濫原には高く築かれた藍師・藍商の城構えといわれる豪壮な邸宅と白壁の寝床をもつ藍屋敷が点在していったのです。

次に、江戸時代後期藍作地帯を象徴する藍畑を描いた絵画があるので紹介しましょう。（図6.藍田灌水之図）

画面には、遠くには阿讃の山並み、中央には吉野川に浮かぶ帆掛け船が描かれています。手前には藍に水をやるために畑に掘られた井戸から組立式の「鏡立（かがみたて）」と呼ばれる釣瓶で男たちが交代で灌水作業をしています。中央のあぜ道には馬を引く農夫。右奥には白壁の寝床と藍屋敷が見えます。生長した藍葉は刈り取られて藍屋敷に運ばれ「藍切り」（刻み）から乾燥、「藍こなし」まで真夏の炎天下で行われる作業が続きます。藍作は水やりに限らず厳しい重労働です。連続堤防は当然ありません。江戸時代の藍作地帯の原風景とも言えるのどかな風景です。

作者の大原吞舟（1792～1857）は、阿波の出身といわれる江戸時代後期の京都の絵師で、天保14年（1842）名西郡東覚円村の藍商大磯次郎兵衛の求めで描いたものです。絵の上部には興源寺の住職玉潤による画讃があり、そこには大磯家の先祖が藍業をはじめ繁栄にいたるまでの経緯や戒めが記されています。

江戸時代、この地域を象徴する産業はいうまでもなく藍作でした。母なる暴れ川の恵みである肥沃な土壌と水を生かし流域の先人たちは日本一の藍作地帯に育て上げました。この絵は藍づくりの営みがこの地にしっかりと根着き、着実に隆盛していったことを物語り、当時の姿を余すところなく伝えています。母なる暴れ川「吉野川」がつくり出した舞台の上で演じられた先人の営み、洪水や氾濫と闘いながら営まれた先人の生活の生々しい記録を見ることができます。



図6. 藍田灌水之図（吉野中学校蔵・徳島県立文書館保管）

6. おわりに一土地に刻まれた営みの歴史を探訪一

本稿で紹介した藍畑地区を歩くと、足の裏に土地の高低やうねりをダイレクトに感じることができます。特に中須地区の場合、現在では連続堤防の建設により北部の吉野川本流は直接見ることはできませんが、集落から北部の吉野川側は急激に落ち込み、川まで坂道となっているところなど、連続堤防が建設されるまでの流域の景観を体感することができます。同じように南部の神宮川は、現在は埋め立てられコンクリートの三面張りの川となっていますが、かつての流路の中心部まで向かう坂道を実感する事ができます。

歩くことによって、母なる暴れ川吉野川が形成した地形とその上に築きあげた日本一の藍作地帯に先人の粘り強くたくましい営みに思いを馳せることができます。自然と人為の綾なす営みを味わうことができる歴史探訪をお勧めいたします。

【藍畑歴史散歩のポイント】

- | | |
|----------------|-------------|
| 1 第十堰 | 6 新宮堤 |
| 2 水除争記念碑（皇大神宮） | 7 新居嘉藤次墓地 |
| 3 松熊神社 | 8 神宮川埋立記念碑 |
| 4 藍屋敷（田中家） | 9 印石（産神社） |
| 5 藍屋敷（武知家） | 10 志摩利右衛門墓地 |



図 7. 藍畑地区周辺地図
(出典：地理院地図〔GIS MAP〕に筆者加筆)

お知らせ

「ミニ情報発信室」(P30)では、今回紹介したコースを巡るウォーキングイベント情報を発信していますので、ぜひご確認ください。

吉野川沼田堤防完成式典を開催しました

平成30年度より事業工事を進めてきた吉野川の沼田堤防(L=約2.2km)が完成しました。これを記念して令和8年7月20日(月・海の日)に美馬小学校、吉野川高水敷(美馬市)にて「吉野川沼田堤防完成式典」(主催:徳島河川国道事務所、徳島県、美馬市)を開催しました。

当日は国会議員、関係首長、工事関係者、地元関係団体など多数の方々にご出席いただき、堤防の完成を祝いました。

今後も、気候変動により脅威を増す洪水をはじめとする自然災害から吉野川流域の安全・安心を守るための取り組みを続けてまいります。



美馬小学校(屋内式典会場)



沼田堤防



阿波おどり(竜美)



パネル展示



徳島河川国道事務所長
事業概要説明



阿波おどり(花美すき連)



三味線餅つき



竣工セレモニー会場
(吉野川高水敷)



くす玉開披



吉野川河川一斉清掃

～たくさんのゴミが集まりました～【河川占用調整課】



7月の河川愛護月間行事の一つとして、徳島河川国道事務所では昭和49年より毎年7月の第1日曜日に池田ダムより下流の吉野川及び旧吉野川・今切川において河川一斉清掃を行っており、地域の恒例行事としても定着しています。今年は時折雨の降るなかでの開催となりましたが、ケガ等の報告も無く無事に終了しました。

実施内容

- 実施日：令和8年7月5日（日）
- 参加数：93団体（約1,700名）
- 回収したゴミの量：約39.30m³（4トントラックで約13台分）
可燃ゴミ約13.80m³、不燃ゴミ約14.75m³、
資源ゴミ約10.75m³



吉野川左岸・青石橋下流



吉野川右岸・河口付近



吉野川左岸・名田橋下流



吉野川右岸・第十堰上流



吉野川右岸・ふぶるパークみかも



今切川左岸・水辺プラザ周辺

徳島河川国道事務所では、これからも地域の皆様と一緒に親しみのある美しい吉野川をつくらしていきたいと考えており、今後も吉野川河川一斉清掃の開催を予定しております。事務所職員一同、地域の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

国土交通省・徳島県・美馬市・災害協定業者の合同で 「排水ポンプ車操作訓練」を実施しました。

【実施日時】 令和8年5月28日（木）午前9時頃～午後5時頃

【実施場所】 北島町水辺交流プラザ（今切川左岸11k/O付近）

国土交通省では、出水時災害等に備え、保有する排水ポンプ車の迅速かつ的確な操作を実施するための「排水ポンプ車操作訓練」を毎年実施しています。

今回で通算23回目の訓練となりましたが、徳島河川国道事務所に加え、徳島県、美馬市及び災害協定業者の方々に操作関係者として訓練に参加していただきました。

訓練には、国土交通省排水ポンプ車2台、徳島県排水ポンプ車2台、美馬市排水ポンプ車1台と約90名が参加しました。

全国的に豪雨災害が頻発している中、地域にお住まいの皆さんの生活、生命、財産を守るため、浸水被害に機動的に対応出来るよう、排水ポンプ車の操作手順等を確認するとともに、操作技術の習得、向上を図る訓練となりました。



重要水防箇所を市町と合同で巡視しました

～出水に備え 6 市 8 町と現地確認～

台風や前線等に伴う出水に備え、より一層の水防体制の強化を図るため、吉野川・旧吉野川・今切川（国管理区間）における重要水防箇所の現地状況を確認し、情報を共有することを目的として、合同巡視を行いました。

6 月 22 日(月)



阿波市（大野橋付近）



吉野川市（瀬詰大橋付近）



上板町・石井町（第十堰）

6 月 29 日(月)



三好市（四国中央橋付近）



つるぎ町・東みよし町（青石橋付近）



美馬市（脇町潜水橋付近）

6月30日(火)



徳島市
(第十堰付近)

令和8年度の重要水防箇所に関する資料は、徳島河川国道事務所のウェブページで公開しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/bousai/suiboukasyo/suiboukasyo.html>



7月17日(金)



鳴門市・松茂町
(長岸橋)



藍住町
(市場橋付近)



北島町
(新高橋付近)



板野町
(大寺橋付近)

重要水防箇所とは

重要水防箇所とは、洪水時に堤防が崩れたり、洪水が堤防を越えたりするなどの恐れがあり、重点的な見回りや点検が必要な箇所のことです。点検する堤防の区間が長いため、堤防高さや幅、被災実績などからあらかじめ水防上重要な区間を定めることで効率的な点検ができ、危険な箇所の早期発見を行うことにより、水防団の方々が土のうを積むなどの迅速な水防活動を実施することができます。



水防団による水防活動
(月輪工法)

重要水防箇所は、堤防の高さや大きさ、過去の災害の実績などから2段階に分類しています。

【重要度 A】洪水時に被災を受ける可能性がある区間

【重要度 B】A ほどではないが、被災を受ける可能性がある区間

「水防」とは

「水防」とは、洪水あるいは洪水のおそれがある時に、

- 地域に住んでいる人々(住民)が中心となって
- 土のう積み等の水防工法で川があふれるのを防いだり
- 注意を呼びかけたり
- 避難をしたりすること



積み土のう工など
水防工法の実施

で、水害による人命や財産への被害を防止あるいは軽減することが主な活動です。国や地方自治体も、気象や河川に関する情報や水防資器材（排水ポンプ車）の提供などを通じて住民の活動を支援しています。



事前の避難訓練の実施



河川に関する情報提供



排水ポンプ車の提供

吉野川流域の堤防は、大正・昭和初期につくられたものが多く、現在まで順次拡幅されてきました。時代により築堤材料や施工方法が異なるため、土質分布や強度が不均一であり、堤体内部の土質構造が複雑であること、また、基礎となる地盤についても、洪水等によって形成された河床材料である箇所が多いことから、堤防内部の「水みち」の形成・拡大が懸念されています。(Our よしのがわ Vol.30) 重要水防箇所の巡視、市町の水防団が実施する堤防の監視などの水防活動は重要な役割を担っています。





建設 DX 見学会・参観日を開催しました！



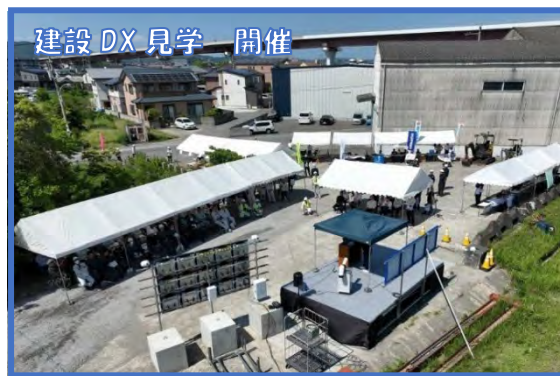
旧吉野川出張所では、東南海・南海地震対策として、堤防の耐震対策工事を鋭意施工しております。

今切川左岸 5k800 付近の老門地区では、今年度より本格的に施工が始まり、先日、無人化建機による作業ヤードの設置が完了しました。今後は、護岸基礎となる鋼矢板の圧入作業を開始する予定です。本工事現場では受注者【佐々木建設（株）】の積極的な取組により、5月

29日～30日に、四国地域の建設業者の方々を対象に「建設 DX 見学会」、地域の皆様を対象に「建設 DX 参観日」を実施しました。これは、最新の建設 DX 技術を紹介・展示する見学会であり、当日は多数の来場者により熱心にご見学いただきました。

工事期間中はご不便・ご迷惑をおかけしますが、地域の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

開催の様子



第2回吉野川上流かわまちづくり推進協議会

吉野川上流の徳島県美馬市・三好市に位置する西部健康防災公園では、吉野川の高水敷をグラウンドとして利用し、年間通じて数多くのイベントが開催されています。当該エリアは、地域交流の場として活用されているとともに、中島地区 MIZBE ステーション※や徳島県立西部防災館が立地し、防災拠点としても大きな役割を担っています。



今後も水辺空間を活かした県西部の更なる発展を目指して、地元自治体や民間 団体、有識者と河川管理者である徳島河川国道事務所が連携し、「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」を設立しており、第2回協議会を下記の通り開催しました。

1. 開催日時：令和8年7月7日（火）15時30分～16時30分
2. 開催場所：四国三郎の郷 交流体験室
3. 議 事：(1) 吉野川上流かわまちづくり推進協議会規約改正について
(2) 吉野川上流かわまちづくりアンケート調査結果について
(3) 工事の進捗状況について
(4) 各委員からの質問、提案、連絡事項

会の中では、2市2町が実践している取組や抱えている課題などについて共有されました。



加美 一成（美馬市長）



高井 美穂（三好市長）



松浦 敬治（東みよし町長）



古城 忠美（つるぎ町副町長）

発言概要(発言順)

【美馬市】リバーサイドパークでのスポーツ大会や花火大会関連イベント、ジュニア駅伝など、吉野川沿いの空間を活用した取組を紹介。階段護岸や管理用通路の整備を通じ、県西部2市2町が連携して交流人口の拡大とにぎわい創出につなげたいとの意向が示された。

【三好市】竹林の適正管理と利活用に関する検討を進める中で、伐採後の竹の処分が課題となっていることを説明。竹チップや竹パウダー、竹炭などへの活用により、処分コストの削減や地域内資源循環、新たな価値創出につながる可能性が示された。

【つるぎ町】アンケート結果にも見られる景観改善への期待を踏まえ、竹林伐採への協力について言及。伐採した竹を炭づくりに活用したいという地域の意向があり、実施時の協力を求めた。

【東みよし町】アンケート結果から、川に関する知識や治水事業への理解が十分に浸透していない可能性を指摘。事業の目的や必要性、地域との関わりを積極的にPRするとともに、川に親しみながら正しい知識を身に付ける取組の重要性が示された。

※防災ステーションのうち、水防関係者や住民など、地域のあらゆる関係者が活用し、地域の賑わい創出や地域活性化にも寄与する施設を「MIZBE ステーション」と位置づけています。



「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」関係市町メッセージ【第1回】

令和7年5月、「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」が始動しました。徳島河川国道事務所では、地元自治体や民間 NPO と連携し、徳島県西部健康防災公園周辺で、川の魅力を活かしたまちづくりを進めています。本記事では、協議会を構成する関係市町よりいただいた、活動に込めた想いや地域の魅力をご紹介します。

まつうら けいじ 松浦 敬治 東みよし町長

地域への思い

東みよし町は、悠々と流れる吉野川の恵みを受けながら発展してきた町です。古くから吉野川は、交通や産業、農業、そして人々の暮らしの中心として、地域の歴史と文化を形づくってまいりました。

私は、この吉野川こそが東みよし町の原点であり、未来を切り拓く鍵であると考えております。

今後は、吉野川の豊かな流域環境を守りながら、その魅力を最大限に生かした地域振興に力を注いでまいります。具体的には、水辺空間を活用した交流・観光の推進、川を軸とした防災・減災の強化、さらには次世代を担う子どもたちへの環境教育など、多面的な取り組みを進めていく考えです。

人と自然が調和し、誰もが安心して暮らせる持続可能なまちづくりを実現すること、それが、東みよし町の目指すべき姿です。

これからも地域住民の皆さまをはじめ、国・県・関係機関の皆さまと連携しながら、吉野川がもたらす新たな地域の可能性を共に育ててまいります。



協議会に期待すること

吉野川上流かわまちづくりにおいては、安全で快適な水辺空間の整備を進めるとともに、地域の皆さまや民間事業者の皆さまが主体的に河川空間を活用し、より魅力的なまちづくりへと展開されることを期待いたします。

本町では、樹木伐採などの整備計画を進めており、見通しの良い、安全で利用しやすい水辺空間の創出を目指しています。これにより、マラソンやウォーキングといったイベントの開催など、多様な活動の場として大いに役立てていきたい所存です。

また、地域の史跡や治水の歴史を学ぶ「歴史探訪」や、市町を越えた「かわのネットワーク」づくりなどの取り組みも予定されており、地域の魅力を広く発信する絶好の機会になるものと強く感じています。

今後とも、吉野川と共に歩むまち・東みよし町の発展に向け、皆さまと力を合わせて取り組んでまいります。

(寄稿：令和7年10月頃)

協議会の取り組みや関係者インタビューの内容は、吉野川上流かわまちづくり推進協議会ウェブサイト内でご覧いただけます。



大規模洪水に備え、**演習**を実施しました！

～令和8年度 堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション～

徳島河川国道事務所では、令和8年6月1日に「堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション」を実施しました。

気候変動に伴う異常気象に伴い、全国的に堤防が決壊するような洪水が発生しています。令和元年東日本台風（台風19号）、令和2年7月豪雨等においても複数個所で堤防決壊が生じており、このような近年の降雨状況を踏まえると、吉野川・旧吉野川でもいつ発生するかわからない状況にあると言えます。

「堤防決壊」という最悪な事態に備えるためには、日ごろから課題意識を持つとともに、万全の準備を図ることが重要であり、取組として平成19年度より実施しています。

シミュレーションの概要

想定

大規模な洪水が発生したことにより、今切川右岸 3k800 付近が決壊



「浸水ナビ」とは、浸水想定区域図を電子上に表示するシステムです。

自宅や職場などが浸水する恐れがあるのか等、あらかじめ調べておいて、水害への事前の備えや安全確保の行動につなげましょう。



浸水ナビ

堤防決壊による最大浸水エリア（計画規模）（10時間後）
出典：「地点別浸水シミュレーション検索システム」（浸水ナビ）

対応

今切川の水位や決壊により浸水したエリア等を確認しながら、若手職員も参加し以下の項目を検討しました。

- ①緊急復旧
- ②応急復旧堤防築造の工法
- ③復旧に必要な資機材や運搬路の確保 等



堤防復旧工法検討の様子

演習後の意見交換では、参加者から様々な課題や気づきが上がりました。これらの意見を踏まえ、今後、より適切な対応ができるよう改善に取り組んで行きたいと思えます。





視察レポート

出雲で学んだ人と生きものの関係づくり

令和8年6月、島根県を流れる斐伊川において、生態系に関する先進的な取組を視察する機会を得ました。徳島駅から特急列車を乗り継いで約7時間、到着したのは縁結びのご利益で有名な出雲大社がある出雲市です。斐伊川は、県東部にある宍道湖へ注ぐ一級河川で、西側を流れる神戸川への放水路を整備し、洪水時には川の流水を神戸川へ分流している斐伊川放水路が印象的でした。また、この放水路接続部の分流堰直下では、自然に土砂が堆積し天然のビオトープが形成されており、鳥類がたくさん飛来するようでした。斐伊川流域では、コウノトリやトキといった希少な鳥類の生息・定着を目指し、地域と連携した取組が進められています。



斐伊川放水路堰右岸から左岸をのぞむ



斐伊川放水路堰右岸から斐伊川をのぞむ



斐伊川放水路堰右岸から神戸川（斐伊川放水路）をのぞむ

視察を通して感じたのは、「生物のための取組」でありながら、その内容が地域の暮らしや産業と密接に結びついている点です。例えば、農地においては、生きものがすみやすい環境を確保するため、水管理の工夫（土水路の整備）や農法の改善（減農薬・減化学肥料）が行われており、これが生物多様性の向上だけでなく、地域ブランドの価値向上にも寄与していました。ある地域でコウノトリの巣へ案内されましたが、巣の真下ではハウス栽培のため十数人がバタバタと作業しており、下校する中学生も素通りの状況に驚きました。同時に、こういう景色があるべき・目指すべき形なのだと感じました。



ハウス農園の人工巣塔で営巣しているコウノトリ

また、単に生息環境を整備するだけでなく、「人と生きものの関係づくり」に重点が置かれている点も特徴的でした。地元住民や関係団体が主体的に関わり、観察会や環境学習などの活動を通じて、生態系保全の意義が共有されていました。生きものの保全を“自分事”として捉え、関わっている主体それぞれが誇りに感じる仕組みづくりが、取組の継続性を支えていると感じました。

雲南^{うんなん}市立西^{にし}小学校の敷地内に営巣された巣を視察した際は、近くの田んぼにコウノトリが4羽いるのが確認できました。巣は校舎から見える場所に位置しているため、児童が毎日分担して定点観察を行っており、行動を逐一記録していました。次世代を担う子どもたちにも、生態系に関する経験と知識が蓄積されていました。



雲南市立西小学校
空き教室をコウノトリ資料室として活用

今回の視察を通じて、生態系保全の取組は決して特別なものではなく、地域の活動や暮らしと一体となって進めていくことが重要であると再認識しました。吉野川においても、流域の特性を活かしながら、多様な主体と連携した取組を進めていくことが求められます。

今後は、今回得られた知見を踏まえ、吉野川における生態系ネットワークの形成や地域との連携のあり方について検討を深めていきたいと考えています。

出雲市では、その豊かな生態系と保全に対する高い意識から、来年夏に国の特別天然記念物であるトキが放鳥されることが決定しています。現在、市内にあるトキ分散飼育センターでは、トキの野生復帰に向けた取組の紹介や、飼育しているトキを見ることができますので、ぜひ出雲大社とセットで訪れてみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、視察中は中国地方整備局出雲河川事務所、出雲市の職員の方々、特定非営利活動法人いずも 朱鷺^{とぎ} 21の皆様、雲南市立西小学校の校長先生に大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

関連情報は「斐伊川水系水鳥プロジェクト」
サイトでご覧いただけます。





水辺で乾杯！2026



ミズベリングプロジェクト※のひとつとして、7月1日～7日の期間の7時7分に水辺で乾杯して、その写真を共有する『水辺で乾杯』は、今年で12回目を迎える、夏の恒例行事となっています。

今年はミズベリングの青色グッズとして、「水辺で乾杯バッジ」を身につけました。

開催当初から継続して実施している新町川では、新町川を守る会の中村英雄理事長はじめ、大勢の人が、美馬市の四国三郎の郷では吉野川上流かわまちづくりに取り組む関係者が集まり、他事務所の職員ともWEBで繋がりながら午後7時7分に乾杯をして、親睦を深めました。



「水辺で乾杯 in 新町川」の様子



「水辺で乾杯 in 四国三郎の郷」の様子

ミズベリング「水辺で乾杯 2026」のウェブサイトでは、全国各地で開催された水辺で乾杯の写真をご覧いただけます。

<https://mizbedekanpai.mizbering.jp/>



乾杯遺伝子カンちゃん



乾杯遺伝子パイちゃん



※ミズベリング(MIZBERING)とは、かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。

ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語。水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。

ミズベリングのウェブサイト <https://mizbering.jp/>



祭

吉野川フェスティバル 2026 が 開催されました！



「川と親しみ、川の魅力を知り、川と遊ぶための三日間。」をテーマにした「吉野川フェスティバル」が7月31日（金）～8月2日（日）の3日間、吉野川グラウンド（吉野川橋南岸河川敷広場）で開催されました。

期間中、会場ではグルメ屋台やステージでのライブイベント、花火大会などが開催され、家族連れや若者など多くの来場者でにぎわいました。



徳島河川国道事務所では、8月1日、2日の2日間、防災やコウノトリ、テックフォース（緊急災害対策派遣隊）、吉野川近代改修100周年に関するパネルの展示、トンネル点検車の乗車体験ブースを出展し、多くの来場者に楽しんでいただきました。

また、8月1日の早朝には「クリーンアップ大作戦」を実施し、ボランティアの皆さんと一緒に会場周辺の清掃を行いました。

事務所出展ブースの様子



トンネル点検車は、バケットの昇降を行い、参加者は高い所から眺める吉野川フェスティバルの景色を楽しんでいました。ブース内では、パネル展示や特殊車両のパフレットなども配布しました。



クリーンアップ大作戦の様子

この清掃活動は「ゴミゼロのエコイベント」を目指す吉野川フェスティバルの取組として実施しています。早朝から暑くなる中、参加者は会場内をくまなく歩き回り、たくさんのゴミを拾いました。

水難事故防止講習を 「交流体験 in よしのがわ」で実施しました

「交流体験 in よしのがわ」は、吉野川の良さを実感してもらうとともに、川を通じた交流を深めることを目的として、吉野川交流推進会議と共催で毎年7月～8月の間に開催しているイベントです。

徳島河川国道事務所はの中で、川で安全に楽しく遊ぶための「水難事故防止講習」を実施しています。

今年は、右記の日程で合計3回の講習を行いました。

実施日	場所	
7月23日(木)	中流編	吉野川 青石橋付近
7月29日(水)	上流編	池田湖水際公園付近
8月4日(火)	下流編	鮎喰川 梁瀬橋付近

水難事故防止講習

座学と実技講習を通して、水難事故防止に関する正しい知識と心構えをお伝えしました。



▲座学講習

パネルを使って、川のキケンなところや、川で安全に遊ぶためのポイントを勉強しました。



▲ライフジャケットの装着

安全な川遊びの第一歩は、正しいライフジャケットの装着から！ゆるみがないかしっかり確認します。



▲川に流される練習

ラッコのような体勢になり川の流れに沿って安全に流される練習をしました。



▲救助に関する練習

スローバッグを使った救助方法を練習しました。



▲下流編では、お魚観察会が行われました。参加者たちは網を使って、石の隙間などにいる様々な生き物を捕まえて観察しました。



川には楽しいところがたくさんありますが、急に深くなったり、想像以上に流れが速かったりと、キケンなところもたくさんあります。徳島河川国道事務所では、今後も水難事故防止講習を通して、多くの方々に安全に楽しく川と親しんでいただけるような知識と技術をお伝えしていきたいと思っています。



令和8年度 水生生物調査による

吉野川水質調査を開催します

川の中にはいろいろな生き物がいますが、きれいな水のところにしか生息できないもの、きたない水のところでも生息できるものとさまざま、その場所にどのような水生生物がいるかを調べると、その場所のおおよその水質がわかります。

吉野川にはどんな水生生物が生息しているか、専門の先生と一緒に観察してみませんか。

- 開催日時：令和8年8月25日（火）
10：00～12：00
（受付 9：30～）・雨天中止
- 集合場所：吉野川市鴨島運動場
（吉野川市鴨島町知恵島地先）
- 調査場所：吉野川（西条大橋上流）
（詳細はチラシに記載）
- 募集対象：小学生とその保護者
- 参加費：無料
- 募集期間：令和8年8月20日（木）※必着
- 主催：国土交通省 四国地方整備局 徳島河川
国道事務所/共催：吉野川交流推進会議

詳しくは、徳島河川国道事務所のホームページより
ご確認ください → <https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima>

夏休みの自由研究にピッタリ！吉野川の生き物を見つけ水のきれいさを調べよう

令和8年度

水生生物による 吉野川水質調査

川の中にはいろいろな生き物がいますが、きれいな水のところにしか生息できないもの、きたない水のところでも生息できるものとさまざま、その場所にどのような水生生物がいるかを調べると、その場所のおおよその水質がわかります。

吉野川にはどんな水生生物が生息しているか、専門の先生と一緒に観察してみませんか。

上流編（美波市・中川川）

8月5日 終了
（雨天中止）
10：00～12：00
（受付開始 9：30～）
対象：小学生とその保護者

下流編（阿波市・西条大橋上流）

8月25日（火）
（雨天中止）
10：00～12：00
（受付開始 9：30～）
対象：小学生とその保護者

※小学生4年生以下は保護者同伴必須

採って

捕まえて

調べよう

講師 大原 賢二（徳島県立佐那河内 いきものふれあいの里センター長）
外村 俊輔（徳島県立博物館 学芸員）

主催：国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 / 共催：吉野川交流推進会議

◇◆◇お申込みについて◇◆◇

右の2次元コードの応募フォームより、必要事項を入力して送信してください。

【メールの場合】

必要事項【参加者全員の氏名・年齢、代表者の住所・連絡先（電話番号・メールアドレス）】
を明記の上、skr-tokusa60@mlit.go.jp までメールをお送りください。

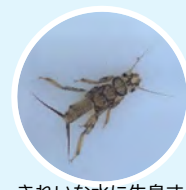
※募集期間終了後、お申込者全員に開催の有無・参加の可否などについてご連絡します。

【お問合せ先】

〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目 35
国土交通省 徳島河川国道事務所 流域治水課



令和6年実施の様子

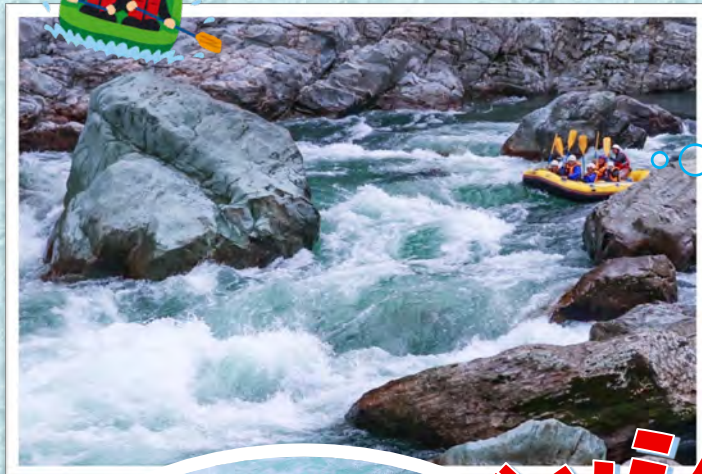


きれいな水に生息する
カワゲラの仲間

吉野川上流でラフティングに挑戦しました！

友達に誘われて、三好市でラフティングを体験しました。荒ぶる激流の中、みんなで協力しながら進んでいく…そんな初めての体験をしてきました！

投稿者：Tさん



人生初のラフティング。
恐る恐る準備を整えて、
ドキドキしながら
いざ出発！

バツシヤーン!!

来た！激流！みんなで声を掛け合いながら
下っていきます。

荒ぶる波がすごい迫力で
時折ボートから落ちそうになる
ダイナミックな体験！



こわい……………いや、

楽しい♡♡♡♡♡♡

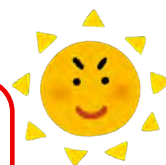
清涼感とうねり乗り越える
達成感で不思議と怖さより
楽しさが上回っていました。

この日は少し小雨も降っていましたが、1日かけてラフティングに夢中になっていました。

静かな場所では、小魚がボートの真下にいたり、自然の景色を見ながら森林浴ができたりと幸せでゆったりした時間も過ごすことができました。



ラフティング、とーっても気持ちよさそうビバ！
 これからの季節は川遊びをたくさん楽しめるビバね。
 安全面に気を付けながらたっぷり満喫してほしいビバ♡



「遊 VIVA! 吉野川」管理者:
 アソビバー

読者の皆様からの投稿をお待ちしています！

「遊 VIVA! 吉野川」では、今後も読者の皆様からの投稿をお待ちしています。吉野川や支川、旧吉野川・今切川を含めた吉野川流域で楽しく過ごした様子をお気軽にご応募ください。採用させていただいた方には、記事が掲載された「Our よしのがわ」を差し上げます。

応募方法

下記の①、②を添えて、メールもしくは郵送でご応募ください。

- ①吉野川や支川での活動内容が分かる記事と写真
- ②応募者様の氏名、ふりがな、連絡先（住所・電話番号）

※原稿の確認依頼や「Our よしのがわ」送付の際に利用します。

【メールの場合】

記事と写真のデータを添付し、件名に「Our よしのがわ記事応募」と記載したメールを、skr-tokusa60@mlit.go.jp まで送信してください。

- ・記事のデータ形式…メール本文に記載もしくは、Word、一太郎、Excel、PowerPoint
- ・写真のデータ形式…JPEG、PNG（1 ファイル 500KB 以上 3MB 以内、5 枚まで）

【郵送の場合】

実施した内容が分かる記事と写真を下記に郵送してください。

送付先： 〒770-8554 徳島市上吉野町 3 丁目 35

徳島河川国道事務所 流域治水課「Our よしのがわ」係

【お問合せ先】 徳島河川国道事務所 流域治水課 088-654-9611

注意とお願い：下記にご理解・ご了承の上ご応募ください

1. レイアウトを整える必要はありませんが、過去の記事を参考に A4 用紙 1～2 枚程度を目安に作成してください。
2. 送付いただいた原稿と写真は返却いたしません。
3. 掲載に際しては、編集委員が適宜編集（文章の校正、写真の色調整等）いたします。
4. 送付にかかる費用（データ通信料、送料）はご負担願います。
5. USB や CD-R などのメディアの送付はご遠慮ください。
6. 投稿者以外の個人名が分かる内容や、個人が特定できる写真がある場合は編集して掲載、もしくは掲載しない場合があります。
7. その他、編集委員が不適切と判断した場合は掲載をお断りする場合があります。

徳島河川国道事務所長と行く！早明浦ダム～池田ダム現場視察！

令和8年6月5日に、事務所長をはじめ、職員総勢21名で早明浦ダムと池田ダムの現場視察に行ってきました！

水資源機構さんにご説明頂き、早明浦ダム再生事業の工事の様子を見学しました。早明浦ダムではより大きな洪水に対応するために再生事業の真最中で、現在は新たに堤体の低い位置に放流管を増設しています。そのため、今の段階でしか見ることでできない、溶接する前の管の一部を見学したり、放流管を通すための穴を開けている、堤体の中に入ることができました。

池田ダムでは、早明浦ダムから流れてくる水を溜め上げることで香川県、吉野川下流に高い水を活かして水を供給していることを学びました。

早明浦ダム・池田ダムの役割を知り、災害時には水を貯留し、平常時には四国四県に水を供給する重要な施設であることを学ぶことができました。



「四国のいのち」と書かれた石碑
(早明浦ダム)



放流管



堤体に穴を開けている様子

「藍のふるさとを歩く vol.5×石井町文化財ウォーキング 2026」のご案内

「吉野川歴史探訪」でご紹介した、藍畑地区に残る藍屋敷と洪水遺産を訪ねるウォーキングイベント（主催：藍のふるさと阿波魅力発信協議会、石井町教育委員会）が下記の通り開催されます。お申込み方法等、詳細については、お問い合わせ先にてご確認ください。

●日 時：令和8年11月29日（日）※雨天中止
9：00～12：00（8：30受付開始）

●場 所：石井町公民館藍畑分館 集合・解散

●参加費：大人 300円 / 子ども（小学生以上）200円 / 未就学児 無料

●定 員：60名

●申込期間：令和8年10月1日（木）～ 定員に達し次第受付終了

●お問合せ：石井町教育委員会 社会教育課 088-674-7505



田中家住宅



印石

上下流交流会に参加しました！

早明浦ダムからの恩恵に対し、水源地域の山の環境を後世に継承するため、「3001年の森※」で下草刈りを行う、上下流交流会が開催されました！この取組は、吉野川の水源地域と下流地域の交流を深め、感謝の気持ちを持ち続けるとともに、水源地域への理解促進と振興支援を目的に毎年実施しています！



※「3001年の森」について

2001年から新町川を守る会が始めた源流の森づくり事業です。森づくりには千年かかるという考えから、早明浦ダム上流にある大川村（高知県）の村有林2haを千年借り受け「3001年の森」と名付け、毎年2回植林や下草刈りなどの手入れを行い、参加者・地元住民との交流を行っています。

板東小学校で環境学習を実施しました！

鳴門市板東小学校で6月22日（月）に、総合学習の時間を活用して自然や地域の環境について学んでもらう環境学習を実施しました！

今回の授業では、徳島河川国道事務所が実施した自然再生箇所について、どのように生物調査を行うのか講義を行ったあと、定点カメラで撮影した写真を見てもらって、実際に生き物が湿地に訪れている様子を見てもらいました。

カワセミが崖に巣をつくったものの、大雨による水位の増加で巣が崩れてしまったこと、それでもすぐ近くでまた巣作りを始めた様子などを写真で説明しながら、湿地を再生することでどんな生き物に影響があるのかについて学びを深めていました。



定点カメラで撮影されたアオサギ



生物調査について職員による説明



崖の巣穴から飛び出すカワセミの写真

吉野川 Diary

～「ここがええでよ！吉野川」こぼれ話～

五感を潤す露地を抜けると・・・ インフィニティの庭から静寂の茶室へ

「ここがええでよ！吉野川」に登場していただいた本楽寺住職の吉田 宥玄さん。吉田さんが手掛ける本楽寺の庭は奥行きがあり、眺めを楽しみながらゆっくりと散策するのがお勧めです。取材日は途中から小雨が降ってきましたが、濡れた青石や、苔がしっとりとした表情を見せ、雨の日ならではの風情が感じられました。

庭の奥には、隠れ家のように静かに佇む茶室『一二三庵』があります。そこへ向かう露地は、『茶の湯の非日常的な精神世界へと心を整えながら歩むための空間』でもあるそうです。

この露地もまた、吉田さんが阿波の青石を使い、手をかけて造り上げたものです。岩盤の上に建てられた数寄屋造りの茶室は、基礎となる青石をはじめ、細部に至るまで吉田さん自身が整えたもので、庭づくりへの深い想いとこだわりが伝わってきました。

自然光が降り注ぐ茶室では、抹茶をいただくことができます（有料）。季節に応じた器で抹茶をいただきながら、さりげなく生けられた花や掛け軸に目を向けると、日常の慌たしさを少し忘れ、穏やかな時間を過ごすことができます。

また、句会や生け花、勉強会などの場として、茶室の貸出も行っています。利用には事前予約が必要です。

お寺の拝観などについては本楽寺のウェブサイトをご確認ください→



美しい庭を眺めながら茶室へと続く露地。



すぐ近くに国道があるとは思えない静けさの中にたたずむ茶室。

編集後記

今年は春から秋にかけてエルニーニョ現象の年みたいです。その影響で海水温も平年より高いので台風が多く発生し且つ夏場の気温もかなり高くなるので熱中症にも注意が必要です。

つきましては、今年の夏は台風での被害が無い事と熱中症で倒れる方がいらっしやらない事をお祈りいたします。(K)

【発刊】：国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

【編集】：Ourよしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL(088)654-9611(直通)

FAX(088)654-9613

E-mail:skr-tokusa60@mlit.go.jp

ウェブサイトアドレス <https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記)QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



Ourよしのがわ 編集委員会

- | | |
|--------|--------|
| ・佐藤 英人 | ・西川 恭久 |
| ・梶本 泰司 | ・中村 伸輔 |
| ・林田 拓都 | ・清水 正仁 |
| ・平島 由行 | ・加宮 正彦 |